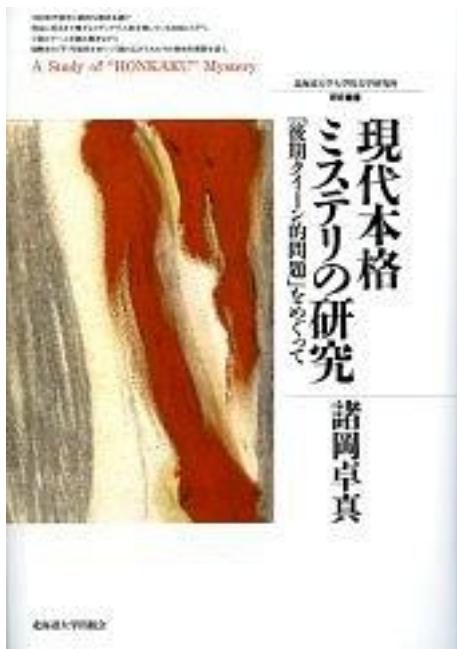


現代本格ミステリの研究



[現代本格ミステリの研究 下载链接1](#)

著者:諸岡卓真

出版者:北海道大学出版会

出版时间:2010-3-31

装帧:单行本

isbn:9784832967328

〈探偵はどんなに論理的に推理を行ったところで、唯一絶対の真実には到達できない〉〈完全な本格ミステリは存在しない〉という「後期クイーン的問題」を軸に個々の作品を分析。新本格からゲームまで現代ミステリの初の本格的な研究。

作者介绍:

諸岡卓真(もろおか たくま)

1977年 福島県生まれ

2008年 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了

博士(文学)北海道大学

現在 北海道大学大学院文学研究科専門研究員，藤女子大学ほか非常勤講師

専門 ミステリ論，テレビゲーム論

論文等

共著に『幻想文学，近代の魔界へ』（青弓社，2006年），『ニアミステリのすすめ』（原書房，2008年）。論文に「九〇年代本格ミステリの延命策」（『ミステリーズ！』vol.3，2003年，第10回創元推理評論賞佳作），「〈日常〉の謎——加納朋子『ななつのこ』論」（『日本近代文学会北海道支部会報』第11号，2008年），「ねじれた推理——『かまいたちの夜×3』論」（『層一映像と表現』vol.3，2010年）など。

目録: 序章 「後期クイーン的問題」をめぐって

1 ミステリの現在

2 後期クイーン的問題の見取り図

3 各章の構成

第一章 多層化する境界線——氷川透『人魚とミノタウロス』論——

1 探偵の死

2 メタレベルからの保証

3 メタファーとしてのゲーデル問題

4 偽の手がかり問題

5 二重のカタルシス

6 顔のない死体

7 それでも行方不明になる真実

8 THE BORDERLINE CASE

第二章 本格ミステリ殺人事件——麻耶雄嵩『翼ある闇』論——

1 語り手の立場

2 香月実朝の矛盾

3 推理の検証——メルカトル鮎の場合

4 推理の検証——香月実朝の場合

5 メルカトルを殺したのは誰か

6 銘探偵の掟

第三章 九〇年代本格ミステリの延命策

1 銘探偵のアポリア

2 二重の回避

3 新たなロジカル・タイピング

4 捏造の徴候

5 行方不明になる真実

6 ずれていく真実

7 偽の手がかり問題の回帰

8 後期クイーン的問題の功罪

第四章 置き去りの推理——『逆転裁判』論——

1 一九九四年の転機

2 小説／ゲームの本格ミステリ

3 『逆転裁判』におけるプレイヤーとP C

4 『逆転裁判』における偽の手がかり問題

5 置き去りの推理

6 変節

7 千尋の言葉と意外性

8 再び置き去りの推理

9 最後の企み
10 ゆさぶられるのは誰か
第五章 並立の推理――『逆転裁判2』論――
1 二つの論証
2 サイコ・ロック
3 制限される情報
4 「僕は誰も殺していない」
5 並立の推理
6 宙吊りの決断
7 正しさ／適切さ
第六章 操りという幻想――西澤保彦『神のロジック 人間のマジック』論――
1 ネタとしての後期クイーン的問題
2 見えるものが見えない
3 思い込み
4 肥大化する操り
5 異教徒と暴力
6 完全な操り／操りの自壊
7 最後の思い込み
第七章 現代本格ミステリのアポリア
1 操りの時代
2 探偵の失敗
3 手がかりの真偽
4 混乱の原因
5 空転する論理
6 偶然と奇跡
7 現代本格ミステリのアポリア
終章 本研究の成果と課題
注
引用・参考文献一覧
あとがき
初出一覧
人名索引
事項索引
・ ・ ・ ・ ・ ([收起](#))

[現代本格ミステリの研究_ダウンロード1](#)

标签

推理

諸岡卓真

研究

日本

◆推理◆

本格

日系本格

日本版

评论

抽读过。

对有翼的解读值得参考。而吊诡的是，本书举以为例的其他几部作品，如黑佛、神的逻辑人的魔法、冰川透、佐藤友哉等等，在后期奎因的本格上有所突破的同时，却又为什么没有一本不是读者口中的渣作呢？或许如本书作者所说，因为后期奎因问题，本格推理已经变得不适合小说这种媒介了吧。

终于读完了...

[現代本格ミステリの研究_下载链接1](#)

书评

[現代本格ミステリの研究_下载链接1](#)